

樹木観察のねらい

樹木は、“光合成によって自ら栄養を作って生命を維持すること”や“種子が発芽して根を下ろした場所から移動することなく生涯を終えること”といった植物としての特徴を備えています。また、“茎＝幹が太り続けることによって長年にわたって大きく成長すること”という木本類＝樹木としての特徴を兼ね備えています。理科教育における樹木観察のねらいは、このような樹木の特徴をおさえることにあります。

このような樹木の特徴は、森林が発揮する水源涵養、山地災害防止、地球温暖化防止、木材生産等の機能の根源となるもので、環境教育や持続可能な開発目標（SDGs）にも深い関りがあります。

樹木観察は、理科教育においては樹木が備える植物としての特徴や樹木としての特徴を学ぶことが目標となりますが、樹木観察を通じた学びは、水源涵養、山地災害防止、地球温暖化防止、木材生産等の幅広いテーマへ児童生徒の興味関心をつなげていく入口にもなるものです。